修学旅行新聞

発行所　財団法人
全国修学旅行研究協会
発行人　白滝末紀
東京都千代田区西神田
2丁目8—7（幅ビル）
電話（262）2426・2932
振替（東京）36337

全修協通常総会開く

同志の決意も堅く

第2期の目標達成へ

（財）全国修学旅行研究協会の第十四回通常総会は二月二十二、三の両日にわたって熱海市の新熱海ホテルで開催。たまたま新幹線の事故が起きたが、一時間ほどのちには全員が出席、役員、支部長など全国から集った同志たちによって時間制限いっぱいまで熱心な審議がつづけられた。第二期目標として掲げられた議案は満場一致で全部異議なく可決され、執行部はこれによって本年度以降の事業遂行にとりかかる。とくに二本柱ともいうべき研究活動と研修旅行推進にたいしてあらゆる強化策がとられたことは、今後の全修協運動を容易に、また、活発化させるものとして特筆される。（関連記事と写真、二・四面にも）

白熱化した審議が続けられる総会場（新熱海ホテルで）

新幹線事故にもかかわらず参加者は定刻のころから続々と参集、午後二時三十分から総会は開始された。

先ず白滝事務局長が「出席定数に達したので開会いたしたい」と述べたあと、新しく就任した神奈川支部長大庭和夫氏、愛媛県支部長仙波勉氏、福島県支部長佐々木二郎氏、中央研修部幹事、千葉県の鰹三佐男氏ならびに本部職員を紹介した。

つづいて高田理事は開会を宣言し「四十八年度の計画をたてるための重要な会であり、全修協設立の趣旨に基づいて意義あるものにしたい」と述べた。

議長団には岡田憲一郎氏（埼玉県）と岩尾覚氏（和歌山県）がきまり、岡田氏は「議長という大役をおおせつかり光栄である。議事については皆さまのご協力をえて円滑に進行したい。そして結成当時の熱意をいまなお持ち続けている同志諸君との旧交をあたためたい」とあいさつした。

議事録署名人に青山良道氏（東京）菊池武自氏（佐賀）書記には鬼頭藤松氏（名古屋分室長）と坂井美恵子氏（大阪事務所所員）をそれぞれ任命した。

山本理事長が立ち「国鉄新幹線事故にもかかわらず来賓諸氏、また全国から同志諸君が参集されたことをうれしく思っている」と前置きして別項のようなあいさつを行なった。

引き続いて近畿日本鉄道株式会社社長佐伯勇氏代理の業務局長赤尾公之氏は時間の関係で退席されたため近畿日本ツーリスト株式会社常務取締役桑原守也氏、近畿日本ツーリスト営業管理室部長今林弘氏および関西汽船株式会社社長長谷川茂氏代理として営業一部副部長土田豊氏がそれぞれ祝辞をのべた。

物故支部長の弔意について動議が提出され、永井常務理事は「全修協の事業を今日まで立派に推進してきたのは山本理事長のご尽力によるものだが、その翼にあった同志の力もまた大きい。その同志を四人も失なったことは痛恨にたえない」と愛媛県大野稔、神奈川県沢田三郎、広島県大西八郎氏の各支部長、初代事務局長佐藤哲衛氏らの略歴と功績をのべ、全員起立して四氏の冥福に默祈をささげた。

第一号議案「四十七年度事業報告ならびに収支決算に関する件」を白滝事務局長が提案、これを可決。第二号議案「四十八年度事業計画ならびに財政計画に関する件」も白滝事務局長が提案説明あり可決、第三号議案「四十八年度修学旅行の研究活動に関する件」を岩崎研究部長、第四号議案「四十八年度教職員研修旅行に関する件」を前田中央研修部長がそれぞれ提案可決。細部は地区別会議で審議することになった。

翌二十三日は午前八時三十分から再開、地区会議のまとめが発表された。

議長団退任のあと山本理事長が立って「二日間にわたりご熱心な討議と決定をいただき感謝にたえない。全修協は比類のない公的機関であるが、それを支えるのはやはり人と人との結びつきに尽きると思う。私はこの点を大切にし、いつまでも貴い友情を持ちつづけたい。その意味できびしいご指示も同志の発言として素直に承わり、今後の事業をすすめるための指針としたい。閉会に際し皆さまのご健康を切に祈り、また来年、一堂に会する楽しみを待っている」と感謝の辞を述べた。

最後に完戸理事の閉会宣言と同氏の発声で全修協万歳を三唱して第十四回総会の幕を閉じた。

祝電

▽衆議院議員原田憲氏▽近畿地区高等学校修学旅行専用船運営協議会会長坪井明氏▽全国教職員互助団体連絡協議会会長田畑常清氏▽日本生活協同組合連合会常務理事川崎種三郎氏▽財団法人日本教育公務員弘済会会長寺田鎮氏▽大島運輸株式会社社長有村治峯氏（順不同）

修学旅行は学習を社会に移したもので、生活指導及び集団訓練の好機会であり、教育計画の一環として行なう学校教育上極めて重要な行事である。

従って修学旅行を安全かつ有効に実施するための企画及び運営を科学的に調査研究して、常にその改善に努力しつつ教育効果の充実向上を図る事は必要であり教育界に課せられた義務でもある。

（財団法人・全国修学旅行研究協会の趣意書から）

機構整備、前進へ

山本理事長の挨拶から

流動と変革の激しい時代と環境の中で、全修協の事業活動は全組織の協力と熱意のある活動によってますます順調な進展を続けておりますことは皆さまとともに喜びにたえない次第であります。

まず研究部門の活動について申しあげますと、協会が発足いらい主唱し、運動を続けている義務教育無償の原則に基づく修学旅行の公費負担の運動は着々進捗し、要求実現への一歩前進を見るにいたりました。

即ち、文部省は要保護・準要保護世帯の児童生徒二十万四千人を対象として小学生一人当り三千百円、中学生一人当り八千九百円、計六億八千万円を修学旅行公費補助金として本年度予算として増額計上することに決定しました。

さらに本年度からはとくに交通条件および自然的、経済的、文化的諸条件に恵まれない地域に所在するいわゆる高度へき地学校の児童生徒全員に同じく公費補助を拡大実施することが本ぎまりとなりこれによる経費一億一千六百万円を予算化することになりました。

その結果、貧困などの経済的理由による不参加、地理的その他環境に恵まれない地域の児童生徒二十二万八千四百一人の全員に楽しい思い出多い修学旅行を無償でプレゼントすることになったのであって、われわれのささやかな運動がようやくみのり、陽の当らぬ恵まれない児童生徒に光を与えたことを喜ぶと同時に、この成果を突破口として修学旅行費無償化運動を一層力強くおしすすめたいと存じます。

なお現在抱えているさまざまな問題のなかで、国鉄新幹線延長に伴う輸送の問題、国鉄運賃をはじめバス、宿泊費などの値上げ抑止の問題、民族文化の保全、自然破壊および公害防止の問題などほいずれも重要な問題でありますので精力的運動によって抜本的な対策を打上げたいと努力をいたしております。

つぎに文化厚生運動の一環としてレジャーと研修の一石二鳥をねらって実施してまいりました研修旅行は、本年で第十七回を迎えることになりましたが、皆さまがたの力強いご協力と全福協傘下の諸団体のバックアップも加わって、着実に発展、前進を続けております。

また、昨年の総会決議に基づき冬季、春季も企画し、年間三季制を設定してからは内容も一新され名実ともに教育界の集団研修としての地歩をきづきあげることになりました。とくに本年からは特別委員会を設置して本部の組織機構を整備しましたので、従来以上の力強い活動が期待できると存じます。

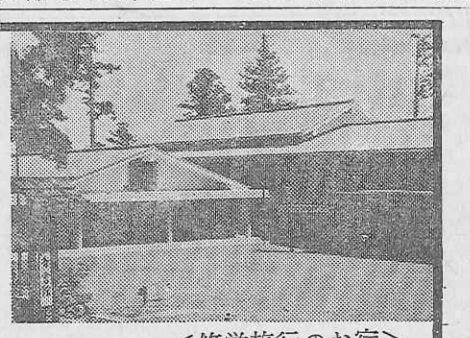
以上、協会活動の一端を申しあげましたが、要するに修学旅行の理論研究と実践行動の近代化および教育福祉と厚生運動としての研修旅行などのもろもろの事業は、われわれ全修協の基幹活動であって、それらの持つ一連の使命は時代の激しい流れのなかにあって一層その重要性を増しつつあることを信じます。

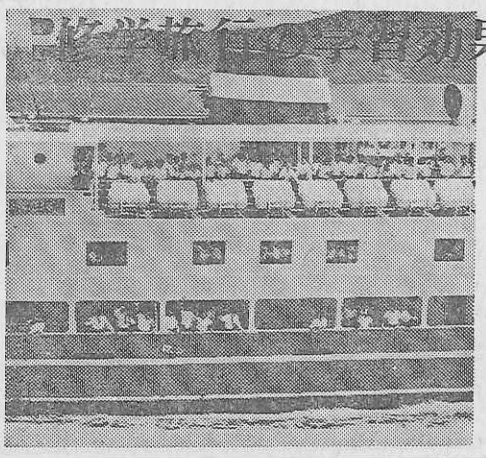
さらに教育界ならびに全国の父兄の期待にこたえるべく、全修協運動を前進させるために諸君の一層の協力をお願いしてごあいさつといたします。（写真はあいさつする山本理事長）

日本の旅　世界の旅
電算機がお手伝いする
ひまわり窓口
近畿日本ツーリスト

風紋

「子どもを教育するには、余程気を付けんといかん。余り学問学問といっていると、ロばかり達者になって、じき親爺をやりこめるようになるよ。今の若い連中にはおれはとてもかなわない。しかしそういう息子のある家の庫には遠からずくもが巣を張るよ。これは一家のことばかりではない。一国もまたそのとおりで、人民が理屈ばかりいっておっては、おっつけ貧乏してしまうだろう」これは勝海舟晩年の語録「氷川清話」からの引用である▼この本が刊行されたのは明治三十一年十月とされているが、海舟はこの年の一月に七十七歳でなくなっている。したがって没後弟子たちが回顧の中から鮮烈な生前のことばをほりだしただけあって実に生き生きとしている▼この「語録」によってみる海舟の経験古今の人物観、日本の政治、財政外交、文芸観、歴史と人生観などは、そのまま現代への痛烈な警告であり、読む者が自分のレベルがはかられるような気持になる▼冒頭のことばなど、ズバリといまの教育や政治の弊をついている。この本が昭和四十二年に再刊され、すでに二十三版を重ね、海舟ブームをよんでいるのは、なるほどと思う▼江戸から明治への激変の時代に、幕府とか藩という立場をこえ、国際社会、日本、人民という次元から時世を見抜き、国の苦難を切り抜ける一途に働いたことは大したことだ▼こうした識見と実力はどうしてできたものであろうか。年譜をみると十六、七歳で蘭学を学び、三十八歳（万延元年）太平洋を横断しているが、こうしたことに見られる視野の広さが、ものをいったことだろう▼いま、日本人の海外旅行者はおびただしい数にのぼるが、勝海舟の海外旅行との系譜は、どういうことになるのだろう▼思うことは、「旅」によって人間をつくるためには、旅する人の姿勢がまず問われなければならぬということである。

霊峰比叡でお泊りを
■素晴らしい琵琶湖の夜景
■根本中堂で早朝の座禅
■スッキリした気分で次のコースへ
収容　1,000名様
第3別館49年3月オープン
ただいま増築しております

<修学旅行のお宿>
比叡山
延暦寺会館
ENRYAKUJI KAIKAN
0775—78—0047

修学旅行の学習効果向上のために

全船冷暖房完備の修学旅行専用船
わかば丸・ふたば丸
旅客定員805名・1,100トン
●一般客との混乗がありません
●船内での学習や研究ができます
●海・船の社会科研究もできます
楽しい有意義な瀬戸内海の修学旅行を！
関西汽船
●お問合せは…大阪（441）9161
ほか関西汽船各地営業所・各旅行斡旋案内所

総会グラフ

地区会議で検討

総会のなかでも地区会議は重要な地位を占める。真剣な表情で審議検討がつづけられた。写真上から北海道・東北、関東、東海・北陸、近畿、中・四国・九州の地区会議。

特別委員会の設置へ

全修協第34回役員会開く

運動展開に強力布陣

総会に先立って第三十四回役員会が二十一日午後一時から新熱海ホテルで開催。山本理事長ほか各役員および事務局長らが出席した。山本理事長のあいさつのあと白滝事務局長から本年度の会務報告があり議事に入り第十四回通常総会提出議案について審議のうえ、それぞれ決定した。

このなかで山本理事長は「理事会のもとに特別委員会を設けて協会活動を発展させたい」とその構想を打ち出した。この特別委員会は修学旅行特別委員会（権威者十名くらいを委嘱し、修学旅行近代化を研究する）と、研修旅行特別委員会（支部長、中央研修部幹事のなかから委嘱し、教職員の福祉厚生を担当）の二つとするもの。そして、まず研修旅行特別委員会の顔ぶれを次のように提案、承認された。

伊藤喜蔵（青森）熊谷碩二（岩手）青山良道（東京）大庭和夫（神奈川）菅原孝（静岡）成昭一（石川）西尾能信（滋賀）森田則一（福岡）貞池富夫（大分）＝以上順不同、敬称略。

この二特別委員会の設置は、こんどの全修協運動に強力な積極性を持たせたものとして注目されよう。

解説

特別委活動に期待

第十四回通常総会で可決した本年度の事業は、前年度につづく長期計画の第二期達成を目標とした次の三点にしぼられる。

①修学旅行の調査研究活動の強化②修学旅行委員会の組織的活動の展開③全国教職員研修行事計画の拡充で、これでは従来とも協会運動の力点として重視してきたところだが、さらに充実した事業の展開を期するため、より合理化しこれを軸にして広報活動をひろげ

また全国教育界にたいする協会の組織影響力を強化し、これら重点業務を中心に事業目的の達成をはかろうというもの。

①については修学旅行が時代の要請にこたえて校外学習としての効果を発揮し、教育性ゆたかなものにするため、まずその実態の把握に力をいれ、改善向上の資料にする。具体的には（イ）児童生徒が修学旅行に参加するばあい、全額公費負担とする（ロ）引率教職員の旅費公費負担制度を確立することなどがあり、調査計画としては（イ）修学旅行の基準概要調査（ロ）東京私立学校の修学旅行実態調査（ハ）修学旅行の問題別ならびにそれに関連する諸調査を行なう。

②関東、東海、近畿三地区の修学旅行委員会活動の現場浸透をはかるとともに三地区の連絡組織強化を中軸に全国的組織を企図する。これには修学旅行専用電車の設定ならびに運営母体として協会が組織した各修旅委（協議会）の活動により改善をすすめる。

③全国教職員の行動学習、厚生運動として研修旅行がさらに教育界の行事として重要な役割を果たすよう一層の充実をはかるものである。本年は国内、海外をふくめ全二十二コースで実施する。募集人員は七千三百名。各支部と協力機関が満を持しているのでこの目標数は早期に達成するものと期待される。（夏季のおもなコースなどは四面に）

さらに以上の三点を、新発足の二特別委員会が全面的に協力することによって、その行動圏は拡大され、内容的にも充実した成果がえられることになったわけで、これが本年度総会の大きな収穫とみるべきであろう。

さかんな船づくり

旅の海洋時代を迎う

新さくら丸誕生

東京―沖縄航路に　大島運輸

青年の船として活躍した大島運輸株式会社（有村治峰社長）の「さくら丸」が東京―沖縄間の定期船として就航したのを機に同社では沖縄航路を強化するため「新さくら丸」を建造中であったが、このほど完成、三月五日下関の三菱重工業株式会社下関造船所で進水式を行なった。

「新さくら丸」は全長一二七㍍、幅一六・八〇㍍、総トン数五〇〇〇㌧型、最高速力二五ノット、旅客定員は一、三〇一名。「さくら丸」より少し小型だが、最新設備をほどこした同社自慢の新鋭船で、ことし六月から同航路に就航する。

「すみよし」も就航

名門カーフェリー

名門カーフェリー株式会社（西田慎一郎社長）では新門司と大阪（南港）間を結ぶためフェリー「すみよし」を建造中であったが、このほど竣工したので三月二十三日新門司港と同二十八日大阪（南港）でそれぞれ披露を行なう。なお同社では昨年五月から新門司―四日市―名古屋間にフェリー「かしい」と「あつた」を就航させている。

「さんふらわあ5」

日本高速フェリーで完成

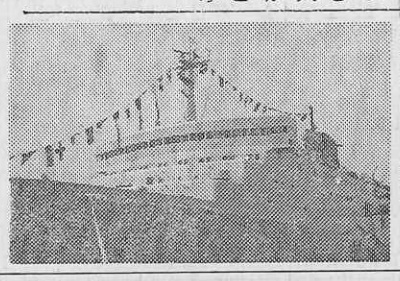
三月二十一日から東京―那智勝浦―高知間に就航する日本高速フェリー株式会社（中川喜次郎社長）の「さんふらわあ5」の披露は三月十日、東京江東のフェリーふ頭で行なわれた。那智勝浦のフェリー発着場は現在建設中のため完成するまで当分二日一便で東京―高知間を直行する。

おりおん丸も

大阪と北九州に就航

大阪（南港）と北九州（苅田）を十二時間で結ぶ大洋フェリー株式会社（近藤悌二郎社長）の「おりおん」は、ことし四月から就航するが、それに先立って三月七日東京江東のフェリーふ頭で披露をした。同船は七〇〇〇㌧、長さ一四〇・八五㍍、幅二二・四〇㍍で速力は二三・五ノット、旅客定員七百九十四名。姉妹船の「ぺがさす」も本年七月に就航する予定である。

なお、同社と日本沿海フェリー株式会社（東京―苫小牧）、フジフェリー株式会社（東京―松阪―名古屋）はオレンジ・ファンネル・グループとして全国ネットを計画中である。（写真は「おりおん」東京フェリーふ頭で）



観光事情の説明会

愛知県の主催で開く

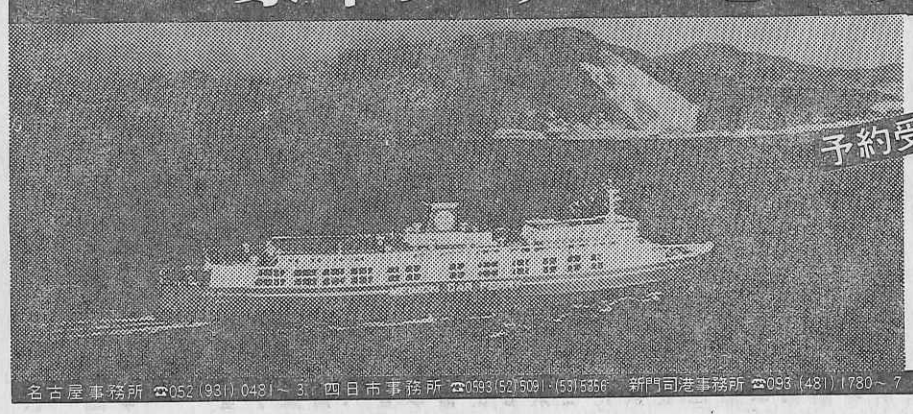
愛知県（桑原幹根知事）では三月十六日から同二十一日まで東京新宿の小田急百貨店で観光と物産展を開催するが、十六日午前十一時から同所で修学旅行などの関係者を招いて最近の県内観光事情の説明と懇談を行なう。

スライド「古墳」

奈良歴史教室で上映

近鉄・奈良駅の構内にある奈良歴史教室では二十一面モザイク・スクリーン「お水取り」のほか二面マルチオートスライド「古墳」を上映している。このほか土、日は文化映画「古社寺」も併映。また三月の年中行事諸道具展は法華寺のお守り、西大寺の大茶碗、茶せんなど。平日午前十時から午後六時まで、日、祝日は午前十時半から午後六時三十分まで。入館料高校生以上百円、こども五十円、（団体割引きあり）問い合わせは〇七四二―二四―三九〇一

豪華フェリーで思い出の修学旅行に！



予約受付中

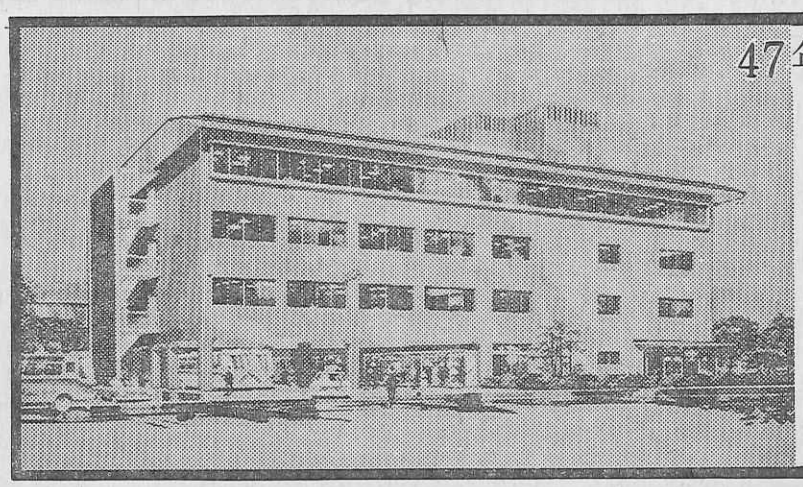
●船舶概要　旅客　594人
設備　冷暖房完備、レストラン、ラウンジ、ゲームコーナー、売店、浴室、公衆電話、VTR等

48年3月より就航
新門司　瀬戸内航路14時間　大阪南港
黒潮航路20時間　四日市　名古屋
就航中

名門カーフェリー
本社　京都市中京区新町通四条上ル　☎075(221)7747～8

名古屋事務所 ☎052(931)0481～3　四日市事務所 ☎0593(52)5091・(53)5356　新門司港事務所 ☎093(481)1780～7　小倉営業所 ☎093(551)0762・0793　東京事務所 ☎03(212)1546～7　川崎営業所 ☎044(32)3726

47年3月1日オープン　空も澄む近江路の旅



〈収容〉800名様
〈食堂〉550名席
〈浴場〉1時に150名
〈設備〉全館冷暖房
〈防災〉諸施設完備

《予約受付中》

修学旅行の専用ホテル

大津市におの浜3丁目1－4

びわ湖ツーリスト・ホテル

電話　大津(0775)24－2321(代表)
大津(0775)23－0408(直通)